

平成 30 年度 保育園・学校課題検討委員会 (第 12 回) 会議録 (概要)

1 開催日時 平成 30 年 12 月 20 日 (木) 午後 6 : 30 ~ 8 : 00

2 場 所 飯山市役所 4 階 全員協議会室

3 会議の経過及び発言

1 開 会

今回が最終委員会という事で、よろしく申し上げます。

2 教育長挨拶

皆さま、こんばんは。第 12 回目ということで、小学校や信濃町小中一貫校視察など年間を通じて検討いただき、忌憚のないご意見をいただく中で、ここまでたどり着くことができました。本日も年末のお忙しい中ありがとうございます。

本日の意見がまとまり最終答申へ繋げたいと思っております。よろしく申し上げます。

3 委員長挨拶

皆さま、こんばんは。年の瀬のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今、教育長の挨拶にもありましたように、最終の委員会という事で、事務局から答申 案を用意いただいておりますので、それについて審議お願いしたいと思います。

皆さま方のご協力をお願いいたします。

4 会議事項

(1) 飯山市保育園・学校課題検討委員会の答申(案)について

(事務局説明)

事前にお送りしました資料は、最終答申に近い形でお示ししてございます。

ご協議をよろしくお願いいたします。

(委員長)

前回まで、委員の皆さまからいただいた貴重なご意見を頂戴しまして、事務局でまとめていただいた答申案について、本日は特にご意見のある方からご意見をいただいて、案の修正は事務局へ委ねたいと思っております。ご意見のある方いらっしゃいましたら、お願いします。

(A委員)

今更と思われてしまうかもしれませんが、6ページの「新たな教育環境の構築」の中に、4として、ふるさと学習がありますが、教育環境の中に入ってくるのは違和感があって、ICT教育とか学力向上とかあって、その前に余裕資源を活用し、とあるとすれば、学習効果が上がる施設整備というような文言を入れていただきたいと思います。

これから統合していくにあたっては、飯山市で教育を受けたいと思えるような提供をしていくという文脈なので、中身はもちろん、環境として施設も整備していくという方向性を出していただきたい。言葉でいえば「ふるさと学習の一層の推進」を、できれば「学習効果があがる施設整備」にしていきたい。それから「飯山で教育を受けたいと思えるような」ではなく「飯山で教育を受けたいと思える」でよいと思います。また、4番のところも、ふるさと学習をとって「学力と学習環境の向上」とか。

あと5ページ。前回も議論したところですが、たとえば「夢に向かい」とか「個性や多様性」「豊かな人間性」という抽象的な言葉はなくしても良いのではないかと。1で言えば「自分の道を切り拓き、未来を生き抜く力」、これでいいのではないかと。「夢に向かい」というのを説明するのはなかなか難しいので、そうした抽象的な言葉はなくしてもいいのではないかと、という感じがいたします。「個性」とか「多様性」とか「豊かな人間性」という言葉がなくても意味は通じると思う。

飯山のために頑張れる子ども、ここも気になります。「ふるさとに誇りをもてる学習環境づくり」くらいでよいのではないかと、捉え方でもあるので5ページについては私の意見ですが。

(委員長)

他に皆様いかがでしょうか。具体的にご指摘いただきましたので、事務局には踏まえて修正をお願いいたします。

(B委員)

5ページの1～3は、どちらかというと教育大綱にある言葉を活かしてあるという事で、一番ベースになる箇所という事で、抽象的ではあるけれども、ここはあまり変更できないのかなと私は思っております。

それより6ページの「新たな教育環境の構築」は、私も気になりました。

「新たな教育環境」を構築した上で、学校教育をどうするかという事が4番5番だと思えますので「新たな教育環境における飯山ならではの学校教育の再構築」ではどうでしょうか。

それから4番「ふるさと学習」の前の箇所ですが「学校の適正配置により発生する余裕資源を活用し」の次に「学校施設設備をすすめ」を入れて以下続けていけば、その下に記載のICT教育や、ふるさと学習の充実につながるのではと思いました。

教育環境を整え特色ある教育をどう出していくか、という事を訴えたいのだろうと思いますので、そのようなことを感じました。

中学校の「学年に複数の教員を配置する」というところ、中学校は、だいたい複数教員配置ではないかと思います。それよりも複数教員が必要なのは教科ごとの話ではないか。教科に一人では教材研究が深まらないので、学年及び教科ごとに複数の教員が配置ということが大事だということではないか。それから部活動の部分、ここはこれから「働き方改革」との関係で大変な課題となっていく箇所ではないかと思っています。

長野市のある中学校では、いかに地域の人材を活用しタイアップすることで、部活動を地域へ移していくかという事を研究しているところです。部活動は大事ですけれども、そうした部分に代わる内容・方向を打っていかないと、これからの飯山での中学校教育というのは教員の働き方改革と絡めた場合に大変になるのではないかと。

十分な部活ができずに潰れた中学校もあると聞いています。

そうした状況の中で飯山市が部活動に力を入れるという方針というのは、部活動に代わる地域のスポーツクラブや体協への移行なども考えていただきたい。部活動は大変重要なものであると思っはいるが、そのあたりの表現を考慮していただきたいなと思います。

全体として非常にコンパクトにまとめていただいて、必要部分は乗せてあってよいと思います。前回の答申案から削除した部分が多いわけですが、削除した部分をベースにして今回のこうした答申になったという事をふまえていかなければいけないと思っております。今後、この削除した箇所が、検討課題にあがってくるものと推測します。

言いたいことはしっかり言いつつも、答申ですので、具体的なことは入り込まないということをお願いしたいと思います。近隣市において、統合に際し、事前に住民に知らされていた通学方法と異なるという事で、揉めているといった記事が新聞掲載されました。ですので、必要なことは乗せるけれども、答申ですので具体的なところまで入り込みすぎないという事だと思います。このくらいが良いと思います。

(C委員)

小中連携教育カリキュラムの実施に関わっての意見になります。

前回までは、小中一貫教育の文言を変えていただいたことで、進めやすくなるのかと思っておりますが、同時に、なぜ「小中連携教育カリキュラムの実施」が求められているのかが記載されていないのかと感じております。子どもたちを、9年間を通して学び・成長の連続性を大事にしていきたいという部分が盛られてもいいのかと思っています。連続性による学びの質の向上を目指すための教育といえますか、現在もそうしたイメージで取り組んできているところではありますが、現場としては弱い部分もありますので、一層充実していければと思っています。

小学校教育のための児童数に関わるところで、感想というか思いですが、現在、飯山

小以外、各学年単級という事で、地域と根差した学習に取り組んできており、地域と結びつくところで成果を上げてきていることがあって、必ずしも少人数がダメという事ではないという思いが地域の皆さんにもあると思う。しかし学校の単級に慣れてきてしまっているので複数教員が配置されるような、地域や教員自身の意識改革が必要になると感じました。

(D委員)

答申の文字数はどれくらいが良いかという事については、素人なのでわかりませんが、保護者会会長として感じた事を述べますが、昨年の中間答申では、補足事項というのがありました。補足事項に「統合にあたっては保護者に対し懇切丁寧な説明を行い、理解を得ること。地域住民に対し十分な説明を行うこと。」というような文面があって、これが決定ではないと思わせるような文面がありました。保育園では、中間提言を受け非常に大きな動揺が走って、保護者の中には統合決定と捉えた方が多かったです。でも、何回も市の方に来ていただくなど、それが望ましい環境だという事で時間をかけてきたのですが、最終的に意見を言っても、それに対して返ってこないと言いますか、保護者の考え方と市の進め方とのギャップだと思いますが、市は「決まっていないから決められない」、保護者は「こうゆう条件があったらどうですか」と、折り合いの付く話を持ってきてもらえれば、話しやすいのですが、それが無いので「市にいくら何を言っても聞いてもらえない」という雰囲気になってしまい、そうしたところで、最終的にあきは保育園の保護者は、あきらめに近い状態になっている。

そのような状態の中で、こうした答申「しろやま保育園で開園が望ましい」という内容がでて、これまでであった補足説明「懇切丁寧な説明」がなくなっていると、「あぁ、やっぱり」と受け止めると思います。

答申は長く書くものでもないかもしれないが、「市は保護者の意見を聞く気がありますよ」ということであれば、こうした補足事項を付けてもらえると保護者は安心して中間提言をみることができのかなと思います。この答申だけを見ると、保護者の立場では、冷たい答申と感じます。

(E委員)

今、D委員が発言された補足事項を追加することは、可能なのでしょうか。提言として将来の在り方は非常によくまとまっていると感じますし、方向性とする、こうなのかなと思います。

今後さらに具体的に進めていくのであれば、その手法についてこうあるべきだというような、今のF委員の意見が盛り込まれた方がよいのではないかなと個人的には感じました。進めるにあたってはこうしたことを提言してほしいということ、追加できるかどうか。今の意見に対する回答が得られていないので、そのあたりはどうですか。

(事務局)

この答申を受けた後に、教育委員会として計画案をたてて、その後、もうステップを考えていきたいと思っていますので、これは答申として受けさせていただいて、その後のステップの時に丁寧なカタチにしていきたいと思っていますところ。この答申で具体的になっているのはしろやま保育園、あきは保育園の部分だけですから、そのところは中間提言にあったとおりです。

(E委員)

小学校のところで、誰が読んでも現実・現状ではない表現、提案していますよね。それと同じだと思いますが。

(事務局)

当然、この答申を受けて、計画案をたてて、パブリックコメントをいただきながら進めていく事になりますので、そこの部分では丁寧な説明を加えていきます。

(E委員)

たとえば、その計画案の作り方もより丁寧にするという意味では、今のような部分も少なからずあった方が良いのではないかと思うのですが。

保育園だけということではなく小学校も中学校もですが、どうでしょうか。

それともう一つ、よろしいでしょうか。

文字で表現されている部分で、より詳しい説明が必要ではないかを感じる箇所があります。意見として出ていたような気がしますが、5ページの「飯山のためにがんばれる」というところ、具体的にどういうことなのかということ。読んだ人にイメージが湧くのかどうか。それから6ページの4番の余裕資源。この前も一度説明があったかと思いますが、実際に余裕資源というのは、特にお金の話だと思いますが、余裕資源としてのお金は、なかなかイメージが湧かないので、この表現がよいかどうかということ。です。

それからその上段の新たな教育環境の構築で、この文章に「環境」という言葉が非常に多く使われています。可能性を伸ばすために教育環境実現のためにさらに新たな教育環境、というように。ですが本来、教育環境実現のためには別の表現方法があるのではないのかなと思います。環境という言葉が多く盛り込まれていることで、かえってわからなくしているように感じます。たとえば新たな教育環境というのは、新たな教育体系の模索とか、より具体的なものを導かないと、もとは、可能性を伸ばすための教育環境実現ということが便宜です。

(F委員)

これはこの委員会としてのまとめ、本来は、これを基にして教育実践に入らなければいけないが、それは次の段階。これを読んだ現場の先生方が何を感じるか、答えが出てくるのでしょうか。この答申を読んだ現場の先生たちが、飯山の教育力を高めるために「こうしたものが欲しい」「教育実践のためにこうしたことに集中していきたい」というような意見があるのではないのでしょうか。

英語教育の場合に、教室でパソコンをかまうのではなく、英語環境のなかに放り込まれた方が話せるようになるという事もあります。現場の先生の意見や考えを、少しまとめてみられたらどうなのかなと思います。それが飯山の教育力を高めていく事になるのかなと感じます。これを実践するのは現場の先生ですから。答申の次の段階を丁寧に扱っていただけたらと思います。

(G委員)

これまで有益な意見が出てきて、今は答申の次の意見まで出されましたが、細かな点は委員長に、そうしたところを踏まえて検討いただいて答申を作成いただき、市へ答申いただいたらどうでしょう。完璧なものになることはありえなくて批判や反論もあるかと思ひますし、ここにいる委員全員が賛成という形にはならないかもしれませんが。

細かな修正等は委員長に一任していただいて、委員長に答申を作成いただければと思ひます。

(H委員)

前回の案と比べると、分かりやすいと言えるかどうかはわかりませんが、かなりすっきりした内容になっていると思ひます。ただ、保護者とするとは一番気になるのは、具体的にいつ統合するのか、校舎はどうなるのかという事。答申として出た時に保護者が気になるころだと思ひます。たとえば、これまで出ていた城北小学校が何年から、というような計画が変わってくる可能性があるのでしょうか。また答申が出たあと、いつ頃、統合予定というのが公になるのかどうか、お聞かせください。

(事務局)

前回お示ししたとおり、答申後に計画を作りますが、その計画については、いついつどこにというようなところまでは触れないで、この答申に沿った形での計画になるかと思ひます。いつまでに、どういうかたちで、というのは、次の委員会の適正配置の中で、もんでいただいて、当然、地域の中に入って説明をしながら進めていかなければいけないということもありますので、何年ごろまでにという事が決められるかどうかという、なんとも言えないところでもあります。前回お示ししたのは、教育委員会としては、このような方向でどうかということであって、検討の際の参考として捉えていただけたらと思ひております。確かに「いつから」ということを出してとなるかもしれませんが、そ

これは今後の検討の段階で触れさせていただきたいと思っております。

(H委員)

この委員会では早い段階から「統合」が出ていたかと思いますが、常盤小や東小では現実に少ない状況にいて、保護者の話を聞くと、通常の授業はもちろん、PTA活動も大変になってきています。

戸狩小も一クラスということで、卒業までに何回も役員を受ける状況になってきていて、PTA組織の見直しの話もでてきているが、統合が予定されているようであれば、それも大きな業務になってくるので、もう少し組織見直しは待った方が良いのかということもでてくるので、そうした点も踏まえて早めに入れていただけたらな、という思いがあるということです。

(委員長)

ほかにいかがでしょうか。

ご意見ございませんようでしたら、本日のご意見を加味して事務局で修正いただき、教育長と委員長で吟味させていただくということで、この会を閉じさせていただいてよろしいでしょうか。

それでは最終の委員会にご意見を頂戴しまして、ありがとうございました。これにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

(教育長)

皆さま、12回にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

私、最初の挨拶でも申し上げましたが「未来とは今である」今の子ども達が未来なわけであります。ですので、時間的余裕はないと考えております。

それからもう一つ、一番良い環境で飯山の子ども達を育てたい。そうすれば飯山の子ども達は、もっと伸びると信じております。今の環境は、betterであってbestではないと思っております。それは「一クラスが少人数である」「単級である」「そうした環境に慣れて負の部分が見えなくなってしまっている」ということでもあります。少なくとも今より物的にも人的にも、より良い環境をつくってやるのが、これから生きていく子ども達の将来にプラスになると信じております。そうした意味で今回の答申が、皆さんから非常に率直で忖度の無いご意見をいただきまして、それら全てがこれからのスタートの基礎となります。この基礎を十分に活かしながら、皆様からのご意見が飯山市の子ども達の教育に活かしていけるように、親切丁寧に、住民のご理解をいただけるようすすめていきたいと思っております。

教育の問題は、数学のように正解はありません。多くの考えがございます。ですから、市民の皆様にご理解と納得をいただけるように根気よく話をすすめていきたいと思っております。

おります。それが遠回りなようで近道になるのではないかと考えております。

長い間、ご討議、熱心な討論ありがとうございました。今後もいろいろなところで、お力添えをいただきたい場面がでてくると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。長い間、ありがとうございました。

5 その他

答申については委員長から提出することで承諾を得て、閉会。